



宮城学院広報
MIYAGI GAKUIN

vol.
172
2025.3

Glory to God

巻頭特集

宮城学院中学校高等学校の 「今」と「これから」

校長 平林 健

MG TOPICS

Close-up! 学びの世界

宮城学院中学校高等学校 教頭

遠藤 純子

卒業生紹介

齋藤 由英子さん

タイトル「Glory to God」は宮城学院の校歌「天にみ栄え」の
英訳であり、本学院のキリスト教精神を象徴する言葉。
旧東三番丁キャンパスの講堂内にも、この言葉が掲げられ
ていた。



宮城学院 中学校高等学校の 「今」と「これから」

**宮城学院に勤務された40年で
変化したと感じることは何ですか。**

私が宮城学院の体育教師として赴任した40年前に比べると、生活様式や価値観は大きく変わりました。例えば、生徒同士のコミュニケーションはスマートフォンの普及により様変わりしたこと、部活動の大会や各種のコンクールで優勝しても、負けた相手を尊重して飛び上がって喜びを体全身で表現することがはばかれるような風潮がありますね。本校では『神を畏れ、隣人を愛する』をスクールモットーとして常に発信しているので、勝敗が決まる場面であっても自分本位にせず、相手のことを尊重するという生

徒のみなさんの行動につながっているのだと思います。

また、高校から宮城学院に入学する生徒が以前より増えました。1970年代くらいは中学から入学する生徒がほとんどでしたが、今は宮城学院中学校から内部進学する生徒の約2.5倍が高校からの入学生となっています。

**先生にとっての変わらない
「宮城学院らしさ」を教えてください。**

アメリカ人宣教師をルーツとする英語教育や音楽教育、そして何よりもキリスト教主義に基づいた女子教育の中高一貫教育は、宮城学院の特徴といえます。

本校では生徒一人ひとりの個性や主体性を大切にする教育により、生徒の自己肯定感を高めることを目標としています。毎朝の礼拝における讃美歌や、クリスマス礼拝につながる音楽の授業、弦楽班の活動といった音楽教育は自己表現ができる機会であり、英語教育はさまざまな国籍の教師を通じて、また留学プログラムを通じて文化を学ぶ機会となっています。

建学の精神と、これを受けたスクールモットー『神を畏れ、隣人を愛する』については、毎朝の礼拝やホームルームの時間、聖書の授業、キリスト教に関連する行事などとおして自然に身に付いていきます。その中で中学1年生から高校3年生の全校生徒が参加する毎朝の礼拝では、教員だけでなく生徒が話をする機会を設けてきました。こうした自分の思いを全校生徒の前で語ることを通じて、物事を深く考え発信する力を培います。実はこの、生徒が物事に対して深く思考し、自分の言葉を発信し行動できる



というのは「宮城学院らしさ」であり、本質的に変わらない部分ではないかと思うのです。

**先生が考える、女子教育の
現代的意義とは何でしょうか。**

近年は全国的に男女共学化が一般的となり、女子校は少数です。男女が同じ環境で学ぶことは良いところもあると思いますが、今の日本において、中学校高等学校という多感な年齢の全ての女子が、共学の環境で自分の特性を伸ばしていけるかどうかに関しては疑問もあります。特性を伸ばせるというのは、リーダーシップを発揮しやすい環境にあるということです。リーダーシップのスタイルも変化していて、以前は先頭に立って集団を引っ張っていくスタイルが主でした。今は集団の中で、みんなの意見を尊重しコミュニケーションを取りながらまとめていくスタイルが多いようです。性別の違いにとらわれず、自由な雰囲気の中で自分らしく伸び伸びと可能性にチャレンジできることは、女子教育によるところが大きいと考えます。単に共学か別学かというところの「女子校」ではなく、キリスト教主義に基づいた「女子教育」によってリーダーの資質を持ち、未来を担っていける人材を育成するのが「宮城学院」ということですね。

本校は創立以来、仙台で女子教育の重要な使命を果たし、多くの卒業生を送り

出してきました。声楽家になることを諦めずに夢を叶えたオペラ歌手の森公美子さんや、卒業後アメリカで看護管理の博士号を取り、さまざまな活動を経て国会議員となった文部科学大臣の阿部俊子さんなど、自立した女性のモデルとなる先輩方が多数おります。

**時代に合わせて、宮城学院は
どう変革していくのでしょうか。**

ICTやIoT、AIなど教育の現場を取り巻く環境は大きく変化し、本校でもBYODの導入により生徒が個人所有の端末で授業を受けることが可能となりました。さらに、Society5.0に向けて、生徒だけでなく教員自身もデジタル技術への理解と適応が必要となります。このような変革の時代だからこそ、「原点回帰」しつつ進化していくことが大切だと思うのです。生徒が世界に目を向け行動することを目的とした探究型国際教育プログラムや、グローバル化に対応するコミュニケーションを重視した英語教育は、生徒の豊かな発想力と探究心を大切にするものです。時代に対応しながら、これからも一人ひとりが自ら考え行動するグローバルサーバントリーダーの

育成に努めていきます。

**140周年に向けた展望と
メッセージをお願いします。**

2026年の140周年に向けてハード面の強化も実施しており、中学校高等学校の新校舎(教室棟)を建設する予定です。これまでの部分的な修繕では、生徒のニーズに応えていない部分もあったかと思いますが、生徒が多くの時間を過ごす教室に特化した教室棟ができるということで、生徒たちの期待も大きいでしょう。何時でも自由に使えるオープンスペースを各階に設け、生徒のみなさんが主体的・対話的な学びを深めることができるラーニングコモンズとして、環境を整える予定です。

私が好きな聖書の言葉の中に、「神に従う人は七度倒れても起き上がる」と「神は真実な方です。あなたがたを耐えられないような試練に遭わせることはなさらず…」という言葉があります。何か行動する時に最初から失敗することを恐れずに、必ず良い方向へ進むと信じて挑戦する気持ちを持ち続けてほしいと願っています。



1962年生まれ。京都市出身。日本体育大学卒。1985年より宮城学院中学校高等学校で体育科教諭として長年教鞭を執る。2021年4月校長に就任。

宮城学院中学校高等学校
校長

平林 健



南西外観(グラウンド側)

2027年、宮城学院中学校高等学校に 新校舎(教室棟)が誕生します。

既存の中高校舎に隣接する4階建ての新校舎(教室棟)は、大きく配置した窓ガラスから光が差し込む開放的な学びの空間を創出します。生徒の主体的な学びの場として設置されるオープンスペースでは、宮城学院らしい中学生と高校生の垣根のない多彩なコミュニケーションが生まれることでしょう。快適なだけでなく生徒の意欲・好奇心を刺激するような、創立140周年を迎える宮城学院の建学の精神を受け継ぐ新たな学びの拠点となることを目指します。



南東外観(帽子の像側)

正門をくぐり、トチノキ並木のアプローチを過ぎ左手正面に見える新校舎は、中高の新たなシンボルとなります。隣のランディス館とも渡り廊下で連結し、校舎間の移動がしやすく、利便性にも優れた施設となる予定です。

※パース図はイメージです。
※記載内容は変更となる場合がございます。

～ミヤガクの「今」届けます～

MG TOPICS

宮城学院(MG)の様々な行事や取組、
学生生徒の活動をご紹介します。



QRコードを読み取っていただくと
より詳細な情報をご覧いただけます。

大学

宮城学院女子大学博英賞(星澤英子奨学金)の 第1回表彰式が行われました

11月19日(火)、校友会秋季総会の終了後、今年度新設された「宮城学院女子大学博英賞(星澤英子奨学金)」(以下、博英賞)の表彰式が行われました。

博英賞とは、卒業生である故・星澤英子様のご遺志により創設された賞で、学業に邁進し、優れた研究成果を挙げた学生の努力を称賛することを目的とします。この賞は各学科・専攻における大学3年次までの通算GPAが1位の者に授与されます。受賞者にはその努力を称え、星澤様よりご寄付いただいた寄附金を原資とした奨学金(星澤英子奨学金)として一人あたり5万円が給付されます。

表彰式では長谷部弘学長から、受賞者を代表して英文学科4年の桑原沙希さんに表彰状と奨学金が贈られました。

星澤英子様は、宮城学院女子専門学校(国語科)を卒業後、44年間の長きにわたり教員として、宮城学院の恵まれた教育環境や学友との出会いにより身に付いた博愛の精神を実践し、教育界で本学院の建学の精神を体現してきました。

今後も星澤様の遺志を継ぎ、学生の教育・研究活動を支援してまいります。



2024年度 博英賞受賞者一覧

○現代ビジネス学科4年	上原 純花さん	○日本文学科4年	多城 那稀さん
○教育学科幼児教育専攻4年	高橋 広果さん	○英文学科4年	桑原 沙希さん
○教育学科児童教育専攻4年	高橋 麗蘭さん	○人間文化学科4年	山下 怜奈さん
○教育学科健康教育専攻4年	奥家 瑞穂さん	○心理行動科学科4年	加藤 杏さん
○食品栄養学科4年	小松 実果さん	○音楽科4年	濱田 真由さん
○生活文化デザイン学科4年	八坂 汐莉さん		

受賞者代表からのコメント

この度は、このような素敵な賞を頂き、とても光栄です。大学1年生の頃は、コロナ禍での遠隔授業が多く、日々課題に追われているという感覚でした。しかし、2年生からは、自ら考える生徒主体の授業が多く、学ぶことの楽しさを感じながら受講することができていました。少人数クラスが多く、愛のある先生方に囲まれて学べる宮城学院女子大学だからこそ、高いモチベーションを保てたと思います。ご指導ありがとうございました。

英文学科4年 桑原 沙希さん



宮城学院での思い出 旅立ちの時を迎えて

1日ごとに春の足音が増してくる3月。今年もたくさんの
園児、生徒、学生、院生たちが、宮城学院を巣立っていきます。
ここでは、この春卒業、修了し、新たなステージへと進む皆さんに、
宮城学院で過ごした日々の思い出をうかがいました。

「大丈夫、お母さんは絶対迎えに来ます。」 先生のその言葉に支えられた、私たちの宝物

母である私が育ったこの宮城学院で、私たちの宝物も育った。自然から多くを学び、興味と思考を広げ、大きくなった。泥も触れなかった過去を忘れてしまうくらい、毎日沢山の洗濯物を持って帰る。今日もまた、先生方の温かい愛の中で、友達と新しい思い出を作って来るだろう。
彼は平和を好む。隣人を愛し、自分を迫害する者の為にも祈る。たった6歳、不安と向き合った疲労は親に向ける。それは父母・祖父母・叔父達から無償の愛を受け、先生方と友達から最高の愛を受け、社会から守られて生きているからこそ。来年度から小学生になる。これから生きていく中で、何度も壁に道を塞がれ、悩むだろう。その時には、この宮城学院で学んだ事を思い出し、誇りを持ち、自分を見失う事なく乗り越えて欲しい。
歴史を重んじながらも新しい風を吹かせてくれる園長先生をはじめ、子どもたちを想い、最後まで寄り添ってくれる先生方には心から感謝しています。ありがとうございました！



森のこども園
保護者代表
丹野 美帆さん

挑戦と成長の4年間

大学生生活の4年間は、私にとって挑戦と成長の連続でした。特に学友会執行委員長としての経験は、忘れられない大切な思い出です。委員長として、多くの学生の意見をまとめ、大学の行事運営やイベントを成功させるために奔走しました。準備期間中は、困難に直面することも多く、仲間との意見の衝突やスケジュール調整の難しさに悩む日々もありました。しかし、最終的に皆で協力し合い、イベントが大成功を収めた瞬間の達成感は何にも代えがたいものでした。また、日々の授業やゼミ活動では、専門的な知識を深めるだけでなく、学び続ける姿勢の大切さも実感しました。仲間と共に切磋琢磨した時間や、挑戦を通じて得た経験は、私を大きく成長させてくれました。本当に支えてくれたすべての人に感謝したいです。これから社会に出ていく中で、大学での4年間で学んだことを糧に、次のステージでも自分らしく挑戦し続けたいと思います。



宮城学院女子大学
生活科学部
生活文化デザイン学科
佐藤 美音さん

生徒会執行部としての経験から学んだこと

私は宮城学院中学校に入学して3年を迎え、2025年3月に卒業を迎えようとしています。宮城学院での生活は私にとってとても大切に充実したものでした。私は3年間、生徒会執行部に所属し、活動してきました。今、振り返ると私の中で執行部はたくさんの経験と多くの学びを得ることが出来た場所だったと感じています。小学生の頃から人前に立つことが好きだった私は中学校に入学し、新しいことにも挑戦してみようと思い、生徒会執行部役員選挙に立候補することを決めました。幸いなことに当選し、私は執行部役員として活動することができました。入試広報行事のオープンキャンパスなど各イベントの運営や挨拶運動、地域貢献活動など様々なことを経験させていただくことができました。特に中学3年では生徒会長という大切な役を務めさせていただき、とても良い経験ができたと感じています。
こうした3年間の活動を通して、仲間の大切さを学びました。誰かが困っているときはみんなで助け合い、協力することが成功に繋がるのだと思います。この3年間私の学校生活を支え、応援してくれた全ての人に感謝を伝えたいです。ありがとうございました。



宮城学院中学校
寺嶋 万桜さん

経験と努力を積み重ねて掴んだ夢 大学院で出会えた先生方・先輩方への感謝を胸に

学部を卒業した後大学院に進学し、約6年間病院管理栄養士になる夢を叶えるために勉学に励んで参りました。大学院では、研究に加えて、臨床栄養師という資格取得のために、実習を900時間行いました。すでに取得した管理栄養士の資格を活かし、実際に栄養指導などの管理栄養士業務を経験させていただきました。資格の他にも、先輩が受け持っていたスポーツチームを見学させていただき、栄養指導をさせていただいた経験もありました。疾患のある方とは異なる、スポーツ選手に対する指導内容を考えることは難しく、一から勉強し直す必要もありましたが、とてもやりがいがあり貴重な経験となりました。大学院へ進学したことで、学部生の時には経験できなかったことやたくさんの尊敬する先生方・先輩方と出会うことができました。春から夢であった病院管理栄養士として働くこととなりますが、出会えた方々への感謝を忘れず、これからも学び続けたいと思います。



宮城学院女子大学
大学院 健康栄養学研究科
健康栄養学専攻
原田 亜依さん

Close up!

学びの世界

宮城学院の教育や研究資源について、
多彩なキーパーソンに
焦点を充てて紹介します。

宮城学院中学校高等学校で 「学ぶ」ということ

宮城学院中学校高等学校
遠藤 純子 教頭



1972年生まれ。宮城学院中学校高等学校を卒業。
1996年より母校である宮城学院中学校高等学校で教鞭を執る。現在、高等学校教頭を務める。

キリスト教精神に基づいた 英語教育、音楽教育、探究型国際教育

宮城学院中学校高等学校は、教育の3ポリシーとして英語教育、音楽教育、探究型国際教育を推進しています。英語の授業は「生きた英語教育」が特徴で、世界の人々と共に生きるための実践的コミュニケーション能力を培います。中学校では英語に特化した「E-Jr.(イージュニア)」を設けネイティブ教員に学ぶ時間を多く設定。高校では聞く・話す・読む・書くの4技能に重点を置き運用力を高め、海外のネイティブ教員と1対1のオンライン授業を実施しています。留学は短期、中期、長期の制度を設け、生の英語に触れ、自立した生活をしながら、確かな英語力を身に付ける機会として充実しています。世界に通用する英語力を磨き、他者を思いやる心を持つ卒業生が日本のみならず世界で活躍しています。探究型国際教育はまさに、英語の教科書を通して生徒が世界に目を向けたことをきっかけに20年前から始まりました。世界で活躍する方の講演を聞いて考える「学びと交流」、SDGsをテーマに調べた内容を発表する「探究活動」により、グローバルな視点を磨き、世界の課題について理解を深めて解決に向け行動できる力を養います。

本校では、創立以来毎朝礼拝を行い、讃美歌と共に歌い奏楽に親しむなど、音楽教育を大切にしてきました。美しい音楽を理解し、感性や教養を磨くことは学校の日常であり、人間形成における豊かな時間です。音楽系のクラブ活動も充実しており、「弦楽班」や「音楽班」は今年度プロの演奏家との共演が実現し、本物の音楽に間近で触れる貴重な経験をしました。キリスト教学校ならではの「ハンドベルクワイア」の歴史は長く、クリスマス礼拝やハンドベルフェスティバルを中心に演奏が披露されます。

さまざまな経験と主体的な活動で リーダーシップを身につける

本校が最も大切にしているのは、礼拝や聖書の授業で多くの話を聞き「ことば」と出会うことです。これは一生を通して自分の心を支えてくれる、とても大きなギフトだと思うのです。幅広いテーマの話を通して視野を広げ、自分を客観的に見つめる時間の繰り返しは思考力を高め、想像し行動する力へとつながります。生徒会活動や行事などの企画運営は、生徒が主体的に取り組んでいます。委員会活動や部活動を通して、先輩と後輩の姉妹体験が得られることは女子高である本校ならではの良さと感じています。上級生にとって下級生をサポートできることは本人の成長機会になりますし、下級生にとっては上級生の姿をロールモデルとして設定しやすく、成長の加速が期待できます。寄り添い信頼を得ながら人と関わる力や、相手を導く力は、育成目標としているサーバント・リーダーとしての能力の一つです。

幸せな未来のために大切なのは 自分の意志を持ち、自分らしく行動すること

自分自身の中高生時代を振り返ると、個を尊重し最後まで話に耳を傾け、「神の前にあって人はみんな平等である」という導き方をする先生方と巡り会えたことは幸せでした。今、恩師とともに、変化を続ける母校で仕事ができることを誇りに思います。

私の担当は家庭科ですが、家庭科は幸せになる知識を持つための教科であり、世界が目指すSDGsの実現に向けて重要な役割を担います。実習を重視し、生徒たちの未来に役立つ教育を実践していきたいと強く思います。女性は将来、人生の中でいくつかの選択局面に遭遇します。その時に決断し、切り拓いていけるよう「自分の意志」を持ち、自分らしく生きてほしい。そのために「今」を大切に過ごし、勉強し、教養と経験を深めてほしいと願っています。

卒業生紹介

MG talk Relation vol.18

様々な分野で活躍する
宮城学院の卒業生を紹介します。

学生の挑戦を応援してくれた学び舎での日々が どんな困難をも乗り越えられる力へと結実した

大 好きな音楽を通して新しいことに挑戦してみたいと考えていた私は、学びを深めながら“新しい音楽”を作る、宮城学院女子大学音楽科の文化系専攻に入学しました。当時新設されたばかりの専攻で、学生たちは率先して多様な企画を立ち上げ、新たなことに取り組む日々を送っていた様子を、今でも懐かしく思い出します。私も、大学祭では音楽・劇・ダンスなど様々なジャンルを組み合わせた舞台を披露したり、また当時



流行していたゴスペラーズの影響を受け、定禅寺ストリートジャズフェスティバルに学友とアカペラで参加したりするなど、自分の好きな活動に精力的に打ち込んでいました。

学生生活で経験してきた「新しい企画を立て、作り、伝える」ことをこれからも続けたいと思い、卒業後は、学生時代に立ち上げた音楽グループでの活動を継続しながら、テレビの制作会社に就職しました。しかし音楽

活動が徐々に本格化していくにつれ、仕事との両立が難しくなってしまう、3年ほどで退職。飲食店でアルバイトを始めました。

様々な事情から、本気で打ち込んでいた音楽グループの活動が休止となってしまった時は、本当に悔しい思いをしました。しかし飲食店の店長に「今度は飲食で人を笑顔にする人になれ」と言っていただき、飲食会社の組織化を手伝う機会をいただいたんです。それからとにかく、学生時代に培った行動力を生かして、経理や販促などを一から学び、会社運営に携わっていきました。

こうして仙台を拠点に様々なことに挑戦してきましたが、東日本大震災をきっかけに、地元の力になりたいと、帰郷することを決めました。飲食店を退職し、福島県のまちづくり活動に参加。「自分に何ができるのか?」と模索していく中で、福島の“完熟桃”に出会いました。出荷基準が厳しく、美味しいにもかかわらず熟しているため出荷できない、という課題を解決しようと、試行錯誤の末、急速冷凍技術を用いて桃の美味しさ

をそのまま閉じ込めた商品の開発に成功。さらにこの魅力を全国、そして世界中に伝えたいと考え、思い切って会社を設立しました。

このような私の経歴を周囲の方々にお話すると「学生の頃とは全然違うことをやっているんですね」とよく言われます。ですが、メッセージを伝えるために歌を歌うことと、「福島はこんなに素晴らしい」と伝える現在の仕事。根元の部分は一緒であると、私は考えています。

学生の皆さんの中には、自身の進路や生き方について悩んでいる方もいらっしゃるかもしれませんが、今すぐに夢や目標を見つける必要はありません。自身の経験を振り返り学生の方々に伝えられることは、「間違ってもいいから、興味のあることに挑戦してみること」。遠回りをしてもいいんです。経験を積み重ねていくことで、新たな発見や出会いがあり、そしてその過程で得た経験が、将来あなたの糧となり、実を結ぶはずですよ。皆さんが健やかで、楽しい学校生活を送ってくださることを、私も願っています。

齋藤 由美子さん

2000年度 宮城学院女子大学芸学部
音楽科 卒業
株式会社ももがある 代表取締役

福島県福島市出身。大学卒業後はテレビ局に勤務するも、学生時代から打ち込んでいた音楽活動に注力するため、数年後に退職。ゴスペルの指導を行うかたわら、飲食店の運営に携わる。その後、東日本大震災を機に地元・福島へ帰郷。まちづくりに参加し、様々な人々との交流を通して福島の「完熟桃」に出会い、2016年、株式会社ももがあるを設立。全国各地に足を運び、福島県ならではの食の魅力を発信している。



Information

オリーブーフ募金者芳名

【2024年10月1日～2025年1月31日受付分】
◎募金総額4,756,008円（2025年1月31日現在）

一般・法人

金111,008円
第48回宮城学院
高校コース会様金100,000円
庄司 健二様金10,000円
音楽科25回生一同様
有限会社小林電設様
遠藤 圭様
仙台五橋教会様
匿名1名様金5,000円
東西クリニック仙台様

大学・大学院

金10,000円
大杉 健二様

高等学校

金40,000円
匿名1名様金5,000円
嶋田 栄一様

同窓会

金500,000円
匿名1名様金300,000円
大久 詔子様

金100,000円

小林 幸子様
馬場 注子様
匿名3名様

金50,000円

中野 弘子様
八子 登美子様
匿名1名様

金30,000円

松岡 千枝子様
蛭子 美奈子様
佐藤 瑞江様
匿名2名様

金20,000円

加藤 亮子様
平野 ふみ子様
村上 迪子様
野々垣 かず子様
丹野 君枝様
今野 悦代様
熊坂 昌子様
匿名1名様

金10,000円

及川 ふき子様
菊地 順子様
信夫 理利様
神山 由美様
清水川 綾様
内藤 邦子様
荒井 美佐子様
福永 洋子様
竹田 彩香様
有山 明子様
佐藤 容子様
八木 晶子様佐々木 海帆様
小島 知嘉子様
河村 昌子様
倉金 和子様
青田 美那子様
後藤 淳子様
大沼 多美子様
戸田 寿子様
齋藤 房江様
高嶋 とも子様
村上 哲子様
志賀 順子様
福川 栄子様
今関 真紀子様
菊池 英子様
尾形 由紀子様
高橋 萌様
遠原 洋子様
西谷 澄子様
宮川 洋子様
小野里 純子様
今野 榮子様
山内 りょう子様
浦山 淑子様
鈴木 章子様
千田 容子様
池本 薫様
小泉 節子様
麦倉 令子様
黒澤 美知子様
片岡 芳子様
小林 弘子様
館 慈子様
菊地 みつ子様
小山 由紀子様
菅原 恵美子様
沼倉 好子様
神戸 典子様
木村 笑子様鈴木 幸恵様
畑中 晶子様
小曾 章子様
佐藤 敦子様
匿名34名様

金9,000円

後藤優子・純子・幸子様

金5,000円

山本 幸子様
佐藤 君子様
小野 喜久子様
朴澤 文子様
佐藤 美幸様
朽木 千里様
木村 公子様
柳橋 利根子様
鶴田 あき子様
大崎 千尋様
匿名2名様

金3,000円

藤井 和子様
佐藤 典子様
石原 あけみ様
田鎖 俣子様
小池 智子様
匿名2名様

金2,000円

加藤 禮子様
藤巻 紘子様
戸田 喜久子様
児玉 宏子様
篠田 和子様
栗田 みどり様
戸板 静子様
千葉 不羈子様宮崎 幸子様
沼波 房様
匿名2名様金1,000円
匿名1名様

役員・教職員・旧教職員

金500,000円
佐々木 哲夫様
本田 辰雄様金200,000円
長谷部 弘様
天童 睦子様金100,000円
桜井 とし江様金50,000円
渡部 美紀子様
白木 悦子様金30,000円
大泉 真理様
匿名1名様金10,000円
庄子 泰子様

皆様のご理解とご協力に深く感謝し、厚く御礼申し上げます。

受け継がれて
いくもの

—歴史のこぼればなし—

vol.

2

100年前の創立記念行事

2026年9月、宮城学院は創立140周年を迎えます。それに向けて様々な事業が計画され、動き始めています。130周年、120周年…と10年ごとの節目に行われてきた本学院の創立記念行事は、いつごろから始まったのでしょうか。

資料室が所蔵する資料から確認できる最初の周年行事は、1911（明治44）年10月に行われた創立25年記念式典でした。その内容は、記念礼拝から始まり、文学会大会や祝賀式、最終日の園遊会まで5日間にもおよぶ盛大なものでした。

下の写真は、1926（大正15）年、今から100年ほど前の、創立40周年記念行事の一つとして開催された運動会の写真です。一日でなんと30種目の競技が行われました。写真の種目名は、「生存競争」と「運命競争」。現代風に言えば、「パン食い競争」と「障害物競争」のことでしょうか。生徒たちの生き生きとした表情から、見ているこちらまで楽しくなってしまいます。服装は、セーラーにブルマー、当時の宮城女学校の運動着がわかる貴重な写真となっています。



生存競争



運命競争